

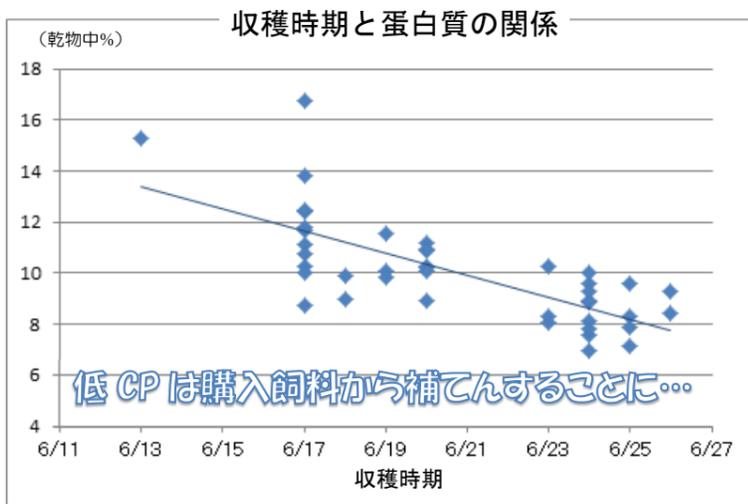
一週間早刈り運動の取組



近年、あたたかくなって牧草の生育ステージが早まり、いつもと同じ収穫開始では刈り遅れるリスクが高まっています。せっかく同じ手間やコストをかけるなら、いつもより早く牧草を収穫することで、栄養価を上げて自給飼料主体の給与を目指そう、ということで『とれた草を喰わずのではなく、喰う草をとる!』をスローガンに、例年よりも一週間早く刈ってみませんか!というリーフレットを2回にわたり配布いたしました。

今年の釧路は天候に恵まれ、実際に1番草は一週間ほど生育が早く進んでいたと思いますし、好天が比較的続いたことから、作業自体も比較的順調に推移しました。

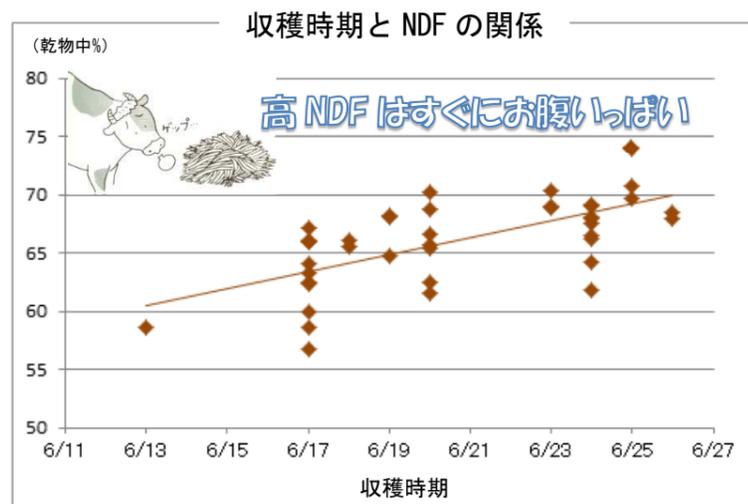
収穫時期が牧草の栄養価(蛋白質やNDF)にどのように影響しているか…、釧路管内の平成27年産1番草生草分析値(くみあい飼料粗飼料分析センター)から整理してみました。



左図から、畑や植生の違いによるものと思われるバラつきは認められますが、傾向として収穫時期が遅くなればなるほど蛋白質は減少し、NDFが増加することがわかります。

蛋白質が高ければ、乳牛が牧草から得られる栄養価が増えるのは当然ですが、センイ分にあたるNDFが低くなると乳牛の食い込み量が増え、濃厚飼料への依存度を抑えた飼料設計を組むことができます。さらに自給飼料主体の栄養管理は、もっとも重要な牛の健康を維持することにもつながります。

いかに早めに牧草を適期に収穫することが経済性につながるか。ぜひ栄養に富んだ牧草サイレージを腹いっぱい給与して、濃厚飼料に頼りすぎない飼料管理を目指しましょう!



上手くいく! 草地管理のポイント

早めの牧草を収穫するにあたり、気をつけなければならないポイントについてご紹介します。

◎早春の施肥は早めに行いましょう!

チモシーの萌芽期は4月下旬。この時期に肥料成分が必要なため、早めに施肥することで牧草がしっかり育ち、収量UPにつながります。

◎春先のスラリー散布は早めに行いましょう!

収穫の時に牧草にスラリーが付着していると、糞尿と一緒にサイレージ調製することになりますから最悪の発酵状態となります。少なくとも収穫時期の1か月以上前に散布を終えましょう。6月中旬から収穫するなら散布限界は5月中旬となります。

◎1番草を収穫した後の追肥は早めにしっかり散布しましょう!

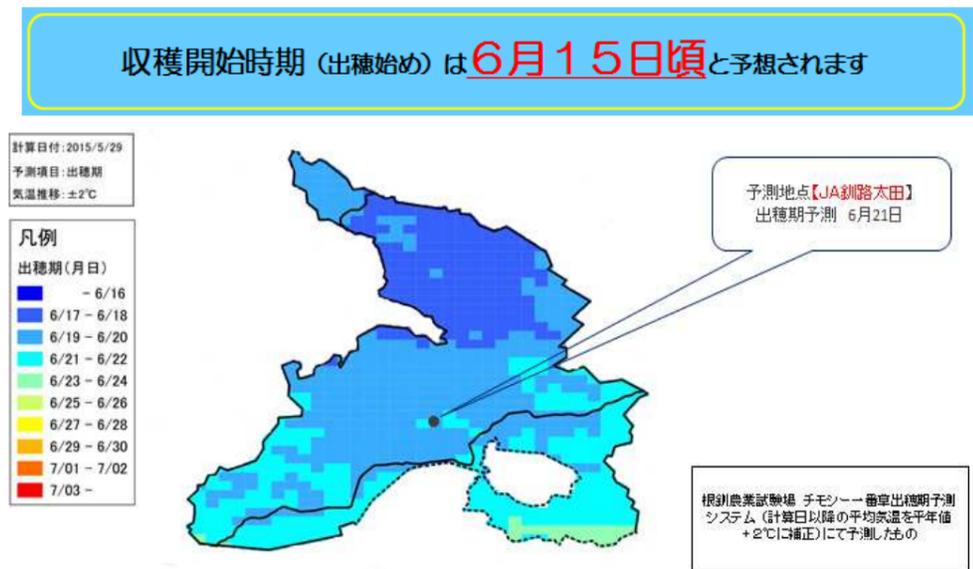
1番草を刈り取りした直後に追肥をすることで茎の数が増加します。チモシーは再生する茎の数が来年の収量に直結するため、すみやかに追肥しましょう。う〜ん。なんでも早めに!がポイントなんですね!



段取り

今年2回目のリーフレット配布の際に、各農協管内の「収穫開始時期(出穂始め)」なるものを紹介させていただきました。一例として釧路太田農協管内へ配布したリーフレットを以下に示します。これは、根釧農業試験場で開発した『チモシー1番草出穂期予測システム』から計算した日付です。

各普及センターが発表している各地区の萌芽日と、アメダスの過去の気温データから出穂始と出穂期を予測しています。



刈取適期

今後も根釧農業試験場の協力のもと、「収穫開始時期(収穫始め)」について1番草前に案内していきたいと思っておりますので、参考にいただければ幸いです。

釧路管内は牧草がメイン!牛がたくさん食べられる栄養価の高い牧草を収穫していきましょう!

